

敬 川 水 系  
河 川 整 備 基 本 方 針

平 成 1 4 年 1 0 月

島 根 県

# 敬川水系河川整備基本方針

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	1
2. 河川の整備の基本となるべき事項 .....	2
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 .....	2
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 .....	2
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断面に係る川幅に関する事項 .....	3
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 .....	3
(参考図) 敬川水系図 .....	4

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

敬川水系は、その源を江津市井沢町井沢地先の丘陵地に発し、途中、目田川、本明川等の支川を合わせながら流下し、敬川地先において日本海に注いでいる。また、本水系の流域面積は約49km<sup>2</sup>でその流域は江津市、浜田市、金城町に属している。

本水系における治水事業は、昭和47年7月の出水を契機に昭和50年度から小規模河川改修事業により計画高水流量を500m<sup>3</sup>/sとして河口から約1.2kmの間の掘削、護岸等に着手した。そして、昭和51年に工事实施基本計画を定め敬川橋地点における基本高水ピーク流量を500m<sup>3</sup>/sとした。その後、昭和58年7月の大出水に見舞われ、床上浸水340棟、床下浸水106棟、家屋の全半壊12棟、浸水面積約178haの甚大な被害を受けたため、本明川合流点下流付近より上流へ約6.6km及び支川約4.3kmの区間を河川災害復旧助成事業により、さらには昭和63年7月にも浸水家屋150棟に及ぶ大出水に見舞われたため魚切橋付近から上流へ約4.1kmの区間を河川災害復旧助成事業によりそれぞれ改修工事を実施した。

本水系の水利用については、農業用水として約130haの耕地のかんがいに利用されているほか、上水にも利用されている。

本水系の河川環境の特徴は、下・中流域ではアカマツ群集が広く分布する都野津丘陵地を流下している。下流域は感潮区間であり、開放的で潤いのある空間となっており釣りなどの河川利用も見られる。中流域には「敬川峡」と呼ばれる峡谷があり、美しい景観と瀬・淵等の良好な生物環境が連続している。また、平地を流下する区間では寄州が形成されヨシやネコヤナギが繁茂している。魚類では、感潮区間はスズキ等の海水魚とウグイ、オイカワ等の淡水魚が共生する区間となっており、下流・中流域ではアユカケやズナガニゴイなどの貴重種も生息する。上流域はコナラ群落が広く分布する小起伏山地を流下し、早瀬と淵が連続する溪流となっており小滝も見られる。

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、流域全体の視野から流域住民や関係機関と連携し、地域計画等と調整を図り、地域社会の状況変化に対応し、治水・利水・環境の調和に配慮した整備を実施する。

治水対策については、過去の洪水を踏まえ、昭和58年7月程度の洪水に対して流水の安全な流下を図る。

利水については、水利使用者との調整を図りながら、水資源の有効かつ適正な利用に努める。

河川環境については、下流域では開放的で潤いのある水辺空間と生物の生息・生育環境の保全に努める。中・上流域では敬川峡や小滝等の美しい景観を保全していくとともに、ウグイ等の大移動型魚の移動環境に配慮し河道の連続性の確保に努めるほか、ヨシノボリ、カワムツ等の主に淵に生息する魚類に配慮し、瀬・淵の保全に努める。

なお既存の施設については適正な維持管理に努めるものとし、洪水時には、雨量・水位などの情報を広く提供し、流域住民や関係機関と協力して被害の最小化に努め、安心できる生活基盤の確保に努める。また、流域の土砂管理については、砂防・治山事業の状況を考慮し適正な維持管理に努める。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

うやがわ 敬川における基本高水のピーク流量は、基準地点<sup>うやがわぼし</sup>敬川橋において $500\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道に配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表

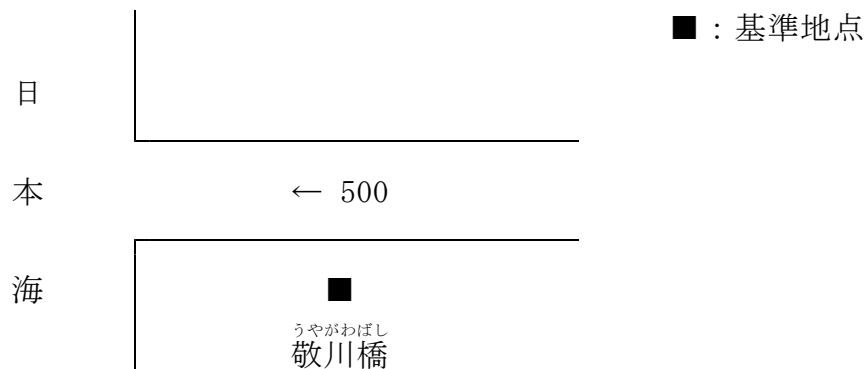
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	洪水調節施設による 調節流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	河道への 配分流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
うやがわ 敬川	うやがわぼし 敬川橋	500	-	500

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、<sup>うやがわぼし</sup>敬川橋地点において $500\text{m}^3/\text{s}$ とし、河口まで同流量とする。

敬川計画高水流量図

(単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )



(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

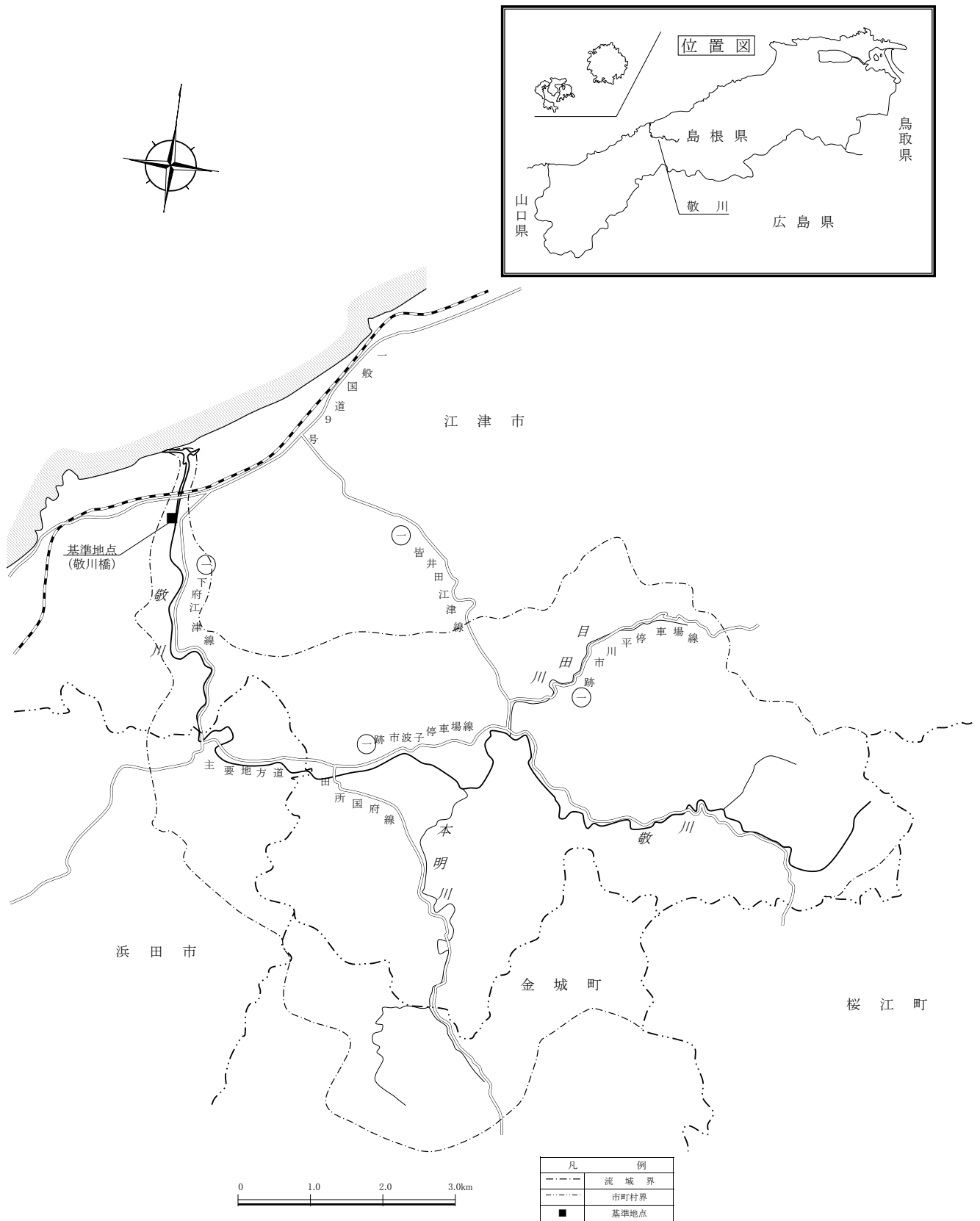
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T. P. (m)	川幅 (m)	摘要
うやがわ 敬川	うやがわ 敬川橋	1.00	+2.80	53	

(注) T. P. = 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、今後流況等の河川の状況の把握を行い、流水の占用、流水の清潔の保持、動植物の生息地または生育地の状況等を考慮し、調査検討を行ったうえで決定する。

# (参考図) 敬川水系図



(参 考)

河 川 整 備 基 本 方 針

決 定 及 び 改 訂 の 経 過			
区 分	事 項	年 月 日	備 考
決 定	決 定	H14. 10. 25	
	施 行	H14. 10. 25	

工 事 実 施 基 本 計 画 (旧)

決 定 及 び 改 訂 の 経 過			
区 分	事 項	年 月 日	備 考
決 定	決 定	S51. 5. 24	
	施 行	S51. 5. 24	